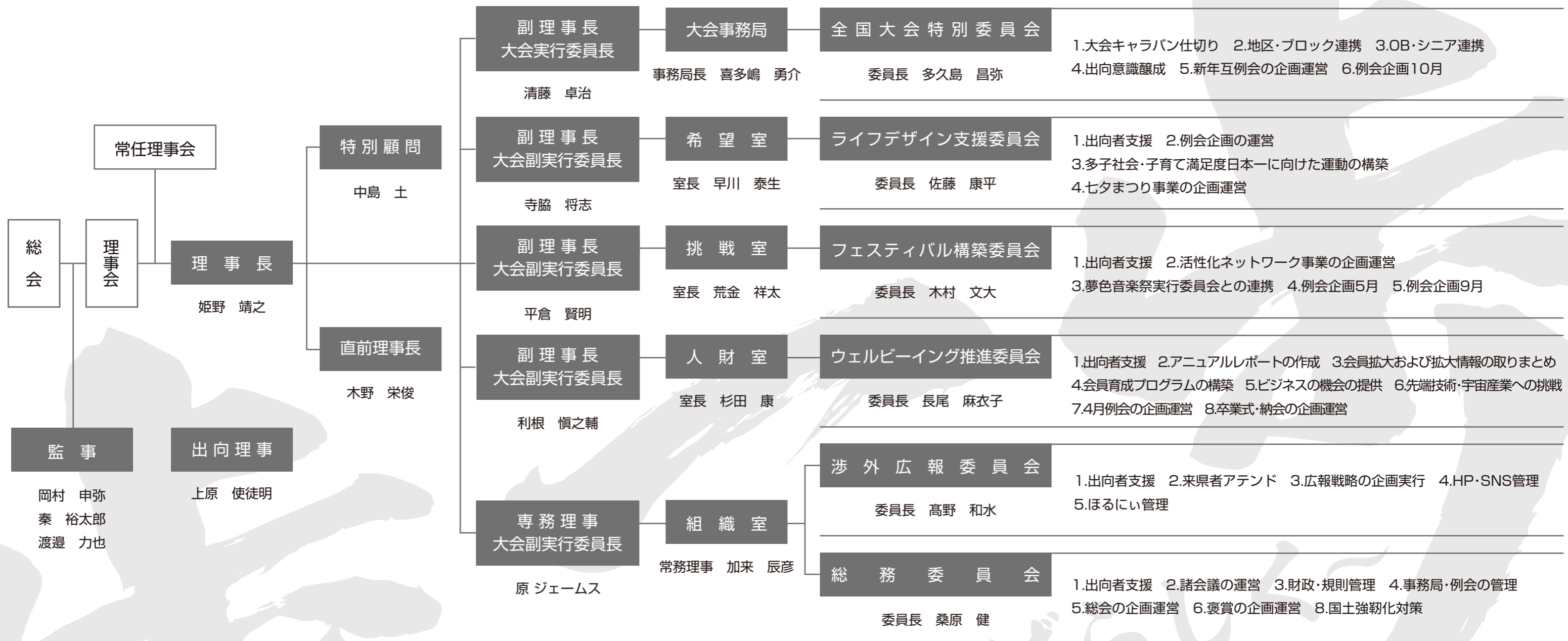


# ANNUAL REPORT 2021

進一歩  
～明日を今日よりもすばらしく～



Junior Chamber International OITA  
一般社団法人 大分青年会議所



## 理事長挨拶



歩一歩  
～明日を今日よりもすばらしく～

一般社団法人大分青年会議所  
2022年度 理事長

姫野 靖之  
Yasuyuki HIMENO

激動の一年が幕を開けました。これ以上ないほどにJCが濃縮された一年を迎えられること、JCI大分の2022年度理事長として大変ありがたく、光栄に思います。

「公益社団法人日本青年会議所第71回全国大会おおいだ大会」の主管をあくまでさせていただくにあたり、わたくしどもの想いはひとつでございます。

それは、JCI大分らしさに溢れた大会にしなければならないということ。

大分の魅力を発信することはもちろんですが、JCI大分のみなが持ち味を発揮し、個性を輝かせ、共に困難を楽しみながら乗り越えていくことこそ、各々の成長、ひいては主管益・地域益となるわけです。

ご来県された皆さまにすばらしい学びや気づきを持ち帰っていただけるような大会を、JCI大分一同、切磋琢磨削り上げてまいります。

併せて、2022年度は中島土君をJCI日本の会頭として輩出させていただくという大役も仰せつかりました。中島土君は地域とLOMのため、そしてこの国の未来のために自らが礎となることを私が入会した年度から何年にも渡って公言してきました。彼のJC生活そのものが、2022年度は日本中に響き渡り、運動となっていきます。共に歩める喜びを噛みしめながら、全力を以てJCI日本の運動に寄り添わせていただくことをお約束申し上げます。

そして、中島土君の会頭年度にふさわしい、ビジョナリーで愛溢れる全国大会おおいだ大会の構築に尽力いたします。

おわりに

全国大会の主管とJCI日本会頭の輩出。身に余る大役に、精一杯の背伸びで順応していかなければと委縮する日々からスタートしましたが、2022年度の組織づくりを終え、構成メンバーの顔を見ている内に不安がどんどん消えていきました。2021年度は53名もの新入会員を迎え入れることができ、勢いのある彼らを見ているとさらに前向きになれる。

少しずつ、一歩ずつ着実に全員で歩を進めていくこと以外できるわけがない。

それこそが社会の大きな前進につながると信じられるのはJCだからです。

明日を今日よりもちょっとずつすばらしい未来に変えていくための歩一歩。

頼もしい仲間と、最高の一年を迎えられることをあらためて誇りに思います。

一年間どうぞよろしくお願いたします。

## 直前理事長挨拶



原点回帰

～ 伝統を革新させ社会を動かす主人公となれ ～

一般社団法人大分青年会議所  
2021年度 理事長

木野 栄俊  
Hidetoshi KINO

2021年度も、期前半は新型コロナウイルス感染症の影響がのこり、なかなか思うような活動ができなかったと感じております。しかし、青年会議所として何ができるのか、こんな時だからこそできることがないかを模索しながら活動していく中で、新たな気づきや発見、いろいろなアイデアが生まれました。今の時代に合ったできる事、WEB会議をはじめ、SNSの新たな価値やメディア等を駆使した様々な発信、映像などを用い最大限伝える手法など今まで近くにあった見えないものを掘り起こし最大限に価値を創出してきました。

期後半はコロナウイルスも落ち着きを見せ、社会的にも活動が活発になってきました。

伝統行事でもある七夕祭りでは、史上初となるLIVE中継での発信に挑戦し、活性化ネットワークにおいてはWEBを活用しながら学生たちと共に考える機会も創出することができました。毎月行われる例会や懇親会など対面にて人と関わるのが制限されるこの時代に、青年会議所の本質を今一度考え、JAYCEEとしてやるべきことをできたと感じております。

原点回帰。原点に戻るといことは「なぜ?」「何のために?」を考えるとということ。これまであった歴史や文化を継承、そしてそれらを発展、革新させていくことこそが我々の使命でもあり、この故郷の繁栄につながります。本年度は見事に全会員がこの思いを達成できたと確信しています。

それから、2022年度 公益社団法人日本青年会議所の会頭にこの大分青年会議所から中島土君が出向することが決まった年でもあります。日本青年会議所の会頭を輩出するということは、この大分を最大限日本全国に発信することができるチャンスであり大分の文化や街並み、それ以上に愛すべき故郷の魅力を再発掘する機会につながります。

また、同年に全国大会おおいだ大会の開催もあり、全国からの注目をされる年でもあります。この二つのチャンスはこれまで築いてきた過去の先輩たちによる努力と、今日までいる現役会員の努力が繋がった証しです。

今やるべきことを、努力を惜しまずやる。すべての会員が同じ方向に向かって前を向き、目的達成のため一致団結し、会員同士のまとまりをみせた一年でした。

本年度理事長として活動をさせていただく中で、いろいろな想いがありました。

人と人が手を取り合い、そしてその中で生まれる友情や尊敬、常に感謝の念を抱き感じる事。誰でもいいわけではなく、俺だからできる最高で心の記憶に残る一年にしたいという思いで一年間走り抜けました。どんな時も必ず誰かの支えや関わり、どんな時でも信頼してくれる仲間がいる。青年会議所という組織はかけがえのない時間を提供してくれました。

卒業生理事長という稀にみる体験をさせていただき感謝しかありません。これまで関わってくれたすべての皆様に感謝いたします。

ありがとうございました。

## 大会実行委員長挨拶



一般社団法人大分青年会議所  
第71回全国大会おおいだ大会 大会実行委員長

# 清藤 卓治

Takuji KIYOFUJI

大分青年会議所69年の歴史で初めて全国大会をこの大分の地にて主管することとなりました。

今、大分は全国から注目されています。

2019年より新型コロナウイルスが猛威を振るう中、我々を取り巻く環境は大きく変貌をとげ、生活様式や青年会議所運動においても様々な制約が求められるような情勢が未だ続いております。

2018年度宮崎大会、2019年度富山大会、2020年度北海道札幌大会、2021年度とちぎ宇都宮大会は災害や新型コロナウイルスの蔓延により、残念ながら、思い描いていた全国大会の開催とは言えなかったかもしれません。

しかし、全国大会の開催を通じて、地域をよくしたいという全国のメンバーの思い、課程、全国大会に関わる全ての人の志、そのすべてが我々JCI大分にとって大きな財産になったと考えます。

こんな時代だからこそ、我々は歩みを止めず、今できる最大限を模索し、地域の発展に寄与する事が青年経済人である我々の責務であり使命であると考えます。

大分はアメリカの人工衛星打上げ企業「ヴァージン・オービット」と大分空港をスペースポート(宇宙港)として活用するためのパートナーシップを締結しました。

また、IoTやロボット、ドローン、アバターなどの先端技術を活用することで、地域課題の解決や、新しい産業分野として取り入れ、県内産業の振興を目指すなど、「先端技術への挑戦」に取り組んでいます。

我々が住み暮らす故郷おおいだで、災害のみならず、少子高齢化、人口減少、労働生産性の相対的低下、デジタル化の遅れによる国際競争力の低下、そしてwithコロナからPASTコロナに向けてなど、取り組まなくてはならない地域課題は数多くあります。

第71回全国大会おおいだ大会を通じて社会的課題へのソリューションを提案し、本大会に集った全国の青年経済人が、日本、世界の持続可能な運動の起点となることを願って、挨拶とさせていただきます。

## 出向者代表挨拶



一般社団法人大分青年会議所  
特別顧問

# 中島 士

Tsuchi NAKASHIMA

(出向先)  
公益社団法人日本青年会議所  
第71代会頭

私は、大分青年会議所の力を信じています。

なぜなら、大分青年会議所は、故郷や社会全体を青年の目線から幅広く捉え、問題のある仕組みを自ら見つけ、より良く変えてきたからです。

大分青年会議所は、商売でつながり自社の利益を上げることを本質的な目的とするのではなく、メンバー一人ひとりができる範囲の中で故郷へ無条件で奉仕をしようとする、純粋な動機をもつ青年組織です。

このような「無償の愛」を前提にしているからこそ、大分青年会議所に所属する私たちは、まちや社会を具体的により良くし、幸せを生み出し続ける運動をつくることのできるのです。

その運動を起こすには、イベントに留まらず、まちを形づくっている「仕組み」を変えていかなければなりません。仕組みを変えることで、地域は良くなり続け、社会は変わり続けることができます。

私は、そのような社会を変え続ける仕組みのことを「幸せを生み出し続ける装置」と呼んでいます。

全国大会は紛れもなく、70年もの歴史の中で紡がれてきた、JCIがもつ最大級の装置です。私たちは、単に大会を開催するにとどまらず、その先のあるべき「まちのビジョン」からバックキャストした「運動のストーリー」の中に全国大会を位置付けることで、この機会を最大限に活用することができるはずで

まちをより良くすることは決して簡単なことではありません。私たちがどんなにまちを良くしたいと願っても、行動を起こさなければ変わることはありません。誰かが考え、具体的に実行したことだけが社会を変えるのです。

知識は、力になります。

装置は、まちをより良くし続けます。

そして、愛は、人々をつなぎます。

私たちの一歩が、私たちのまちになります。

一緒に挑戦しましょう。



事務局 / 常務理事  
**寺脇 将志**  
Masashi TERAWAKI

2021年度、初めて常任理事で常務理事を拝命させて頂きました。初常任という事で右も左も分からず、常任理事経験者の方々に色々教えてもらいながら、学びの多い一年となりました。LOMの要である事務局としての役割は激動の一年でしたが、運営を支える常務理事として邁進してまいりました。委員長・副委員長とは違う形で委員会に携わらせて頂く事で、違った角度から物事を客観的に見る事ができました。Withコロナの一年、LOMの方向性を考え、今年度スローガン「原点回帰」を基に2022年にバトンを渡せたと思います。不慣れな役職に戸惑う事もありましたが、皆さんに助けられながら無事終える事ができました。一年間本当にありがとうございました。



## 総務委員会



委員長  
**加来 辰彦**  
Tatsuhiko KAKU

総務委員会は華やかな事業の企画や運営を行わない裏方の委員会です。しかし、全ての議案書の確認から様々な事業との連携、特にWEBやハイブリッドでの開催が多くなった近年ではほとんどの事業にコミットすることで、多くの学びや機会に巡り合うようになりました。そしてその中でこれまで地味と思われていた総務委員会が光り輝くことも多くなりました。その中で2021年度は伝統ある大分青年会議所の会議方法や運営そのものを革新させ時代に即した組織運営を変革しました。これは今後の大分青年会議所に礎になるものと確信していますし、大分がより豊かな社会へと進んでいく一助になれたと考えています。1年間ありがとうございました。



委員長  
**上原 使徒明**  
Shitoaki UEHARA

当たり前は決して当たり前でない。ということを改めて感じた1年でありました。京都会議・ASPAC・世界会議はハイブリット開催やWEB開催となり、渉外委員会としてJCIという国際組織ならではの国際交流の機会をメンバーに提供することが叶わなかったのは残念でありましたがその反面WEBを通じて多くの可能性も感じました。2021年は現役だけでなく多くの先輩方とも事業やゴルフコンペを通じて深い交流を図ることができました。結びに、2021年度に御支援頂きました全JCI大分メンバーと1年を共にした副委員長・幹事・委員会メンバーに心より感謝します。本当にありがとうございました。

## 渉外交流委員会



通常総会

1・8・11月の通常総会を運営しました。1月通常総会では2021年度の事業計画書と予算についてメンバーから審議をいただき2021年度体制のスタートを飾り、8月通常総会では2022年度の組織についての審議を可決し、組織の運営を行ってまいりました。また、11月通常総会では数年ぶりとなる定款変更の審議をいただき、時代に即した組織運営の方法を仕上げました。また、委任状の回収についても2021年度は電子的方法で行う等これまで行ってきた方法を革新し、組織運営を年間を通して変革させました。



6月例会

6月例会では「～まちあるき！！みんなで作る防災マップ～」をテーマに、メンバーが自宅や会社から最寄りの避難所まで「大分防災アプリ」を使いながら実際に避難を行ってみるというフィールドワークを実施しました。例会が行われるまで自身がどこにどうやってどのようなルートで避難をすれば良いか分からなかったメンバーも多く、例会企画でフィールドワークを行うことで今後避難が迅速にできるようになりました。また、活用した「大分防災アプリ」について、使いづら点や意見をメンバーから集約し、大分県防災対策企画課へ提出しました。今後アプリの機能向上のための一助となる例会企画となりました。



10月例会

10月例会では「戦国GENTENKAIGI！！～某の意見がBVNGOを革新させた日～」というテーマのもと、主に委員会での会議方法について企画を行いました。会議は事前準備が必要不可欠であるということメンバーに知ってもらうためメンバーを10グループに分け事前の会議を踏まえ様々なイベント案を考えてもらいました。当日は木野栄俊理事長と藩主役5名に甲冑を着てもらった等、メンバーの記憶に残る例会企画となりました。また、例会後は多くの委員会が事前準備を活用するようになり、大分青年会議所の活動の原点である委員会運営を革新することができました。



3月例会

3月例会では「JC活用塾！～JCに使われずにJCを使うには！？～」と題し副委員長が中心となり議案を構築しました。JCに入会しJCを通じてどのように自分自身の成長や社業に活かしてきたのかを委員会メンバーがコーディネーターとなり3名の講師よりご自身の実体験を元にして頂きました。



8月OB交流例会

8月例会は佐藤副委員長が中心となりOB交流ゴルフコンペ並びにOB交流例会を企画構築して参りました。朝からOB交流ゴルフコンペを企画し総勢100名近くの現役メンバーと先輩方にご参加頂きました。OB交流例会では、全国大会と次年度の理事構成メンバーの紹介にスポットライトを当て、OBと新入会員にも次年度体制をお披露目することが出来ました。



### MEMBER

副委員長 岡本 将英 岩田 貴司 秦 豊 山田 将司  
副委員長 酒井 裕一郎 桑原 健 田中 智浩  
副委員長 多久島 昌弥 今朝丸 貴 森永 竜太

### MEMBER

副委員長 佐藤 康平 麻生 益寛 後藤 竜之介  
副委員長 瀧 貴史 栗田 圭 齊藤 秀行  
古賀 麻衣子 藤田 剛士



未来創造室 / 室長  
**岡村 申弥**  
Shinya OKAMURA

私の使命は『大分青年会議所に新入会員を50名入会させること！』と自分にプレッシャーをかけ、今年一年が始まりました。沢山の入会希望者と会い、話をさせて頂く中で、故郷おおいたの発展に、こんなにも真剣に考えている入会希望者がいたことに、感銘を受ける日々の連続でありました。そして何より安部委員長が入会希望者に親身なって相談を受けている姿を見て、50名の拡大は夢物語ではないと早々に確信致しました。また、それを的確にフォローする川野副委員長、佐藤副委員長がいましたので、本年は最高の委員会メンバーに恵まれ、結果、歴代最高会員拡大数53名を達成することが出来ました。本当に今年一年有り難うございました。そしてお疲れ様でした。



出向室 / 室長  
**秦 裕太郎**  
Yutaro SHIN

出向室は全国大会開催を翌年に控え、大会開催に向けた備えと地域を良くするため、そして自分たちの代表として出向してくれている大分青年会議所の仲間たちをサポートするために組織されました。4月に行われた対話集会、前年から引き続き世界中を覆いつくすコロナ禍の中で直前までどのように開催するべきか迷わずにはいられませんでした。結果として完全な形での開催は出来ませんでしたが感染対策を徹底して行い、対面しての対話集会を実現することができました。2022年の第71回全国大会おおいた大会を大成功に導き、その後5年、10年先の故郷おおいたを明るい豊かな地域にする為の有意義な年にできたことを改めて皆様に感謝いたします。



委員長  
**安部 良太郎**  
Ryotaro ABE

## 拡大広報委員会

大分青年会議所は、5年前に130名だった会員数は減少を続けており、2020年度のスタートは100名を切る85名でのスタートとなるはずでしたが、新年互礼会のタイミングで18名の拡大を達成し100名を超える103名での再スタートをすることができました。広報活動も大分青年会議所が何をする団体かを今まで以上にHP、SNSで発信し、その活動に共感した同志が大分青年会議所の門を叩くケースも多く、拡大活動と広報活動が一体となっていることが実感できました。その結果が大分青年会議所史上最高記録となる53名の拡大につながったと確信しております。1年間ありがとうございました。



委員長  
**原 ジェームス**  
James HARA

## 全国大会準備委員会

全国大会準備委員会は委員会メンバー全員で役割を分担しながら一年間の担いを全うすることができました。特に4月に執り行われる予定であった公益社団法人日本青年会議所全国大会運営会議との対話集会は、4月の開催予定から2度の延期を経て9月の開催となり委員会メンバー全員で柔軟に刻々と変化する状況に対応してまいりました。当委員会ではこの延期をプラスに捉え対話集会のための勉強会などを毎月定期的に開催することで大分青年会議所メンバーの機運を高められるように調整してまいりました。共に意見を出し合い助け合いながら当委員会の担いであった事業を全て完了できた1年となった事に感謝いたします。



新年互礼会

新型コロナウイルスの感染拡大により、大分市内のほとんどの団体が新年互礼会を中止する中、実施させていただきました。

綿密な感染症対策のもと実施をし、他LOMの皆様から自身のLOMでも新年互礼会を開催したいというお話を聞き、コロナ禍であってもしっかりと対策をし、実施すべきことは実施する必要性を確認することができました。



5月例会

例会企画内で、5月例会までの半年間の拡大活動について報告する機会をいただき、大分青年会議所全体で拡大に取り組む機運が醸成できたと考えます。

新入会員が中心となって作成したプレゼンも私達自身が組織に対する自信を確固たるものにする良い機会になったと考えます。



11月例会

時間、混雑状況など改善点はありましたが、日曜日という開催日程にもかかわらず16名の卒業予定者の方々に来ていただきました。

次年度は期首の人数の半分が新入会員という状態の中、卒業予定者の皆様から次年度も残るメンバーに対して、有形無形の引き継ぐものがありました。



4月例会

全国大会準備委員会の2021年度の1つの担いである4月例会企画では、大分で開催される最後の対話集会に望むために、新入会員やJC歴の浅いメンバーを中心として全国大会及び対話集会に向けてこれまでの大分青年会議所の全国大会に対する歩みを学べる4月例会企画を企画しました。例会当日は全国大会実行委員長のプレゼンテーション及び歴代理事長によるこれまでの経緯の説明動画の上映をいたしました。



全国大会対話集会

今回で3回目となる対話集会では新型コロナウイルスの感染拡大の影響により従来は30名の公益社団法人日本青年会議所全国大会運営会議の現地視察団及び対話集会参加者をお招きして執り行いますが、最低限の人数として8名の全国大会運営会議のメンバーをお招きしての対話集会の開催とさせていただきます。対話集会の内容はYoutube配信をすることで何方でもご視聴していただける用にさせていただきました。



卒業式及び納会

12月9日に執り行われました卒業式及び納会の企画運営も当委員会で担わせていただき、23名の卒業生を送り出すために感謝状の短縮バージョンの作成や卒業記念品としてお渡しする卒業生のイラストを事前に受付横に展示することで円滑な卒業生の運営に務めました。今年度はコロナ対策として歓談の際の食事提供を従来のビュッフェよりプレート提供に変更するなどの配慮した形での開催とさせていただきます。

MEMBER	朝見 祥吾 穴見 亮平 穴見 隆次 安部 光正 石田 光太郎 伊妻 恭平	稲葉 聡 上野 健太 岡田 直也 甲斐 大啓 甲斐 雅俊 加来 修一	加藤 彩和子 加藤 崇雄 河野 仁志 川野 祐貴 馬場 祐輔 渋谷 裕太郎	黒田 健一郎 鎌田 純多 川瀬 誠也 久保 亜香理 黒枝 香貴 藤原 久美子	郷司 翔平 佐藤 栄伴 佐田 拓也 杉田 康 瀬口 弥芳 高野 和	佐藤 栄伴 芝田 拓也 杉田 康 瀬口 弥芳 高野 和	高山 一樹 堤 英貴 津守 彩可 利行 誠司 曾宮 勇樹 伊藤 陽介	山根 千絵 中島 木 那賀 有之介 野田 祐介 牧 克哉 物野 新也	水上 元弘 村田 光 結城 文崇 幸 賢俊 吉川 奈々 吉元 亮祐	竜田 裕樹 児玉 大地 森 勇一朗 池川 武志 本山 純康 ケーラアカシ
--------	---	---	--	---	--	---	---	---	--	---

MEMBER	副委員長 木村 文大 副委員長 軸丸 栄俊	阿部 直幸 遠藤 悠介 喜多嶋 勇介 近藤 希望	志賀 飛太 宋 成国 田中 啓一朗 安永 満	山本 貴史
--------	--------------------------	-----------------------------------	---------------------------------	-------



革新室 / 室長  
**利根 慎之輔**  
Shinnosuke TONE

2021年度は伝統革新室の室長としてまつり事業、そして活性化ネットワークを構築するため少しでも自身の経験を活かすことが出来ればという思いからスタートしましたが、初の室長としての立ち振る舞い、そして難しさを改めて痛感した1年でした。しかしながら室での活動を通し、いつも頼りになる矢野副理事長、そして信頼できる両正副委員長に本当に助けられた1年でもありました。革新室は2021年度のJC活動で唯一の事業系の室ということもあり、自分の中で何かを成し遂げるならこの室、このメンバー以外にない。と思えるような素敵な人たちに巡り合い、心燃やす事業を共に構築することが出来本当に幸せでした。私を革新室の室長に選んでくださった木野理事長には心より感謝申し上げます。そして一年間本当にお疲れ様でした。



## 地域の宝創造委員会



委員長  
**大石 圭之介**  
Keinosuke Oishi

当委員会は、おおいた活性化ネットワーク運営・事業、子ども事業、そして9月例会を担当しました。今年11年目となる、おおいた活性化ネットワークは、主に大分市内の大学・短大の学生と大分青年会議所メンバーが協力して大分市の活性化を行う期間限定の団体活動です。コロナ禍において何が出来るのかを、学生とともに模索しながら活動した半年間でした。「おおいたの魅力を再発見する」をテーマとして、9月例会では、動画という手法で発信し、11月に実施した事業ではクイズという手法で、市民に直接訴えかけました。また、もう一方の担いである子ども事業についてはわれわれが地域活動の中心的な担い手であると考え、高齢者と子どもが交流する機会を創ろうと、グラウンド・ゴルフ交流大会を実施しました。



委員長  
**荒金 祥太**  
Shota ARAKANE

## 伝統革新委員会

2021年度伝統革新委員会では、今あるものをさらに素晴らしくという思いでスタートしました。2月例会では会員減少傾向にある中、事業を拡大できるようにクラウドファンディングに目を当て、メンバー全員で外部資金調達が出来よう学びました。そして7月例会では、大分七夕祭りの決起集会を企画し、祭りに向けメンバー丸となれるバーベキューの場を設けました。新入会員も多く入会されている中、メンバーの交流が出来、当日の祭りに向けて意識統一を図る事ができました。大分七夕祭り事業では、コロナ禍の中で縮小開催とはなりましたが、市民から約6万枚の想いを載せた短冊をバルーンとともにリリースしオンライン配信するかたちで伝統を革新させる事ができました。



9月例会



11月事業



おおいた活性化ネットワーク



2月例会



7月例会



七夕まつり事業

活性化ネットワークのメンバーと3か月近くかけて動画撮影・編集などの準備を行い、例会当日に5本の動画上映と後日のSNSでの動画配信を行いました。例会当日は新型コロナウイルスの感染が広がっていた時期であったため活性化メンバーは残念ながら全員オンラインでの参加となりましたが、オンラインから会場に向けてしっかりとしたプレゼンを行うなど、理想的なハイブリッド型例会が実施できました。

活性化ネットワーク事業である「おおいたの魅力発見！スタンプラリー」と、子ども事業である「まちなかグラウンド・ゴルフ交流大会～おおいたまちなかオーガスタ～」を包括した事業として「コロナ禍からの復活事業～Re:Start Oita!～」を開催いたしました。両事業合わせて500名を超える市民のみなさまにご参加いただき、地域観光と地域活動の復活のきっかけとなりました。

本年度は、感染対策のために参加者数を制限せざるを得ず、参加対象を大分県立芸術文化短期大学と日本文理大学の学生に限定しました。6月から11月の実施期間中に8回の全体会議のほか、グループごとの小会議などを数回ずつ実施しました。各会議はオンライン併用で行うなど実施方法に苦労しましたが、コロナ禍の影響で少なくなっていた学生間交流、地域活動の機会を学生たちに提供することができました。

2021年度大分青年会議所では、外部資金調達を行い事業を構築していく事を視野に入れスタートしました。そこで、私たち伝統革新委員会は外部資金調達の一つの手法となるクラウドファンディングに目をあてました。講師をお呼びし、メンバーにクラウドファンディングを行うための模擬資料を作って学んで頂き、今後の事業構築に活かしてもらうよう取り組みました。

7月例会では、大分青年会議所の一大事業である「大分七夕まつり」の決起集会を行いました。コロナ禍の中、大多数でのバーベキュー懇親会の開催には頭を悩ませましたが、対策をしっかりと行う事で実施させて頂きました。一大事業の前にメンバーが集い、盛大に懇親会をした事により、「大分七夕まつり」当日の大成功に繋がりました。

2020年は新型コロナウイルスにより中止を余儀なくされた「大分七夕まつり」でしたが、2021年度は行政から、コロナ禍の中どんなカタチにしる行なってほしいと、ご依頼を受け頭を悩ませました。そこで本年度は市民一体となるオンラインでの「大分七夕まつり」の開催を企画しました。市民の皆様から願いの込めた短冊と風船リリースをYouTubeで生配信する事で大分に活力を与える事業ができました。

### MEMBER

副委員長 生野 佑侍  
副委員長 長尾 麻衣子

小野 峻助  
小野 未希  
甲斐 健  
加藤 喬志

栗林 正英  
佐藤 圭吾  
高橋 あゆみ  
如法寺 雅俊

姫野 哲也

### MEMBER

副委員長 出口 宣佳  
副委員長 早川 泰生

池永 優  
清藤 卓治  
後藤 真也  
小山 統之

首藤 大輔  
原 裕太  
平野 卓都  
横江 清展